市議会だより きたあきた

No.28 平成23年8月1日発行

6月定例会

- 本定例会の審議
  議員定数26人から20人へ …… 2～3
- 常任委員会の審査報告 …… 4～5
- 一般質問 …… 6～11
- 今定例会の議案と結果 …… 12
- 特集・議員定数削減 …… 13
- 委員会所管事務調査報告・
  会議録検索システム …… 14
- 請願陳情・意見書提出
  全国市議会議長会 …… 15
- 人事案件 …… 16

夏空の下で子どもたちの歓声響く
～米内沢小学校1年生プール授業～

「北秋田市議会議員の定数を定める条例の一部を改正する条例の制定について」起立採決の様子

市議会議員定数 26人から20人へ削減決定

平成23年北秋田市議会6月定例会は、6月17日（金）から27日（月）までの11日間の会期で行われました。

今定例会では、承認11件、条例案1件、予算関連案が11件、発議案6件などが上程され、すべて原案のとおり可決されました。そのうち「北秋田市議会議員の定数を定める条例の一部を改正する条例の制定について」は、起立採決の結果、賛成多数で原案のとおり可決されました。

とれたて村物産販売促進事業など

平成23年度一般会計補正予算は、歳入歳出の総額にそれぞれ2億3209万8千円を加え、210億2467万7千円とするもので、歳出の主なものは、とれたて村物産販売促進事業310万6千円、大館能代空港スカイネット事業1050万円、農業振興費2834万2千円、橋りょう長寿命化修繕事業999万6千円、米内沢病院清算費用等70万9千円などです。

また、3月定例会から継続審査されていた「広域カントリーエレベーターに関する陳情書について」は、起立採決の結果、賛成少数で不採択となりました。

優先して取り組む課題として提案

最終日に議員発議により追加提案された「北秋田市議会議員の定数を定める条例の一部を改正する条例の制定について」は、現在の定数26人から20人に削減し次の一般選挙から施行するものとして、提出議員が財政事情や人口減少などから提案説明を行い、その後定数削減によるデメリットや節約できる予算の割合などについて質問がありました。

その後、討論が行われ、起立採決の結果、賛成多数で原案どおり可決されました。討論の内容は次のとおりです。

とれたて村とは？

市では、東京都に市の農林水産物や加工品・特産品等を展示・販売する「アンテナショップ」を設けるため、東京都板橋区ハッピーロード大山商店振興組合が開設する全国ふる里ふれあいショップ「とれたて村」へ参加しています。また「とれたて村」には、全国から１３自治体が参加しており、秋田県内では北秋田市が初めてとなります。

反対討論

（福岡由巳議員）

議員定数を削減すべきとの住民の声は多方面より聞いている。市には問題が山積しているのに議員は日ごろ何をやっているのか。姿が見えないのに報酬はもらっている。そんな議員はいらない。と指摘する住民は非常に多くいます。これらの声に応えるには、議員定数を減らすことよりも、真の議会改革を行う必要があります。議員の質をいかに高め、民意の反映をどうするかの議論の方が大切です。そして、住民を代表して審議決定するのですから、全住民を代表するにふさわしい数が必要です。問題なのは議員定数の削減以前に議会のあり方、意識改革です。議会基本条例の制定などで議会の活性化、市民に見える活動が必要です。以上のことから情報公開・住民参加の開かれた議会を目指し、政策の提案や評価する力を養う議員の意識改革に努めたその後に定数削減が必要かどうか検討することにして、現時点では定数削減には反対します。

賛成討論

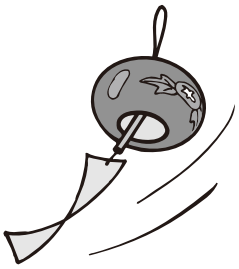
（武田浩人議員）

議員定数削減については、平成21年6月議会、同年12月議会に提案されましたが、否決されてきた経緯がある。その理由は、広大な地域で議員数を減らせば民意が反映されにくくなる。また、議員報酬もほかと比べても低く議会費の予算全体に対しての比率も低いなどでした。

今回の提案理由で、北秋田市の厳しい財政事情もさることながら、市民の厳しい目線に対して議会自らが身を切る選択をすることが重要と考えます。

そして、民意が反映されにくくなるなどのデメリットは、議員自らが研修・研鑽を重ねて資質を高めて議会活動を活発にすることで解消していく。このことは、次期改選後の話ではなく、今後の議員の活動が益々向上するように実践していかなければならない。

また、今回提案の定数については、各議員の意見を調整したものであり、真に市民の納得を得られているとは思わない。これから、市民の理解を得られるよう活動と議論をさらに活発にしていかなければならないと深く決意して賛成の討論といたします。



賛成討論

（大森光信議員）

これまで議員定数については、理論的な根拠や基準がないため、長い時間をかけても議論が進みませんでした。全国的にも、北秋田市と比較対象となる自治体は少なく、わが市独特の風土を考えると参考にするのは難しかったのも事実です。

全国的にも82％の市自治体で2割程度の減員をしていること、さらに市民の多くが議員定数の削減を希望しているという点を考慮すれば、議員定数は減ずるべきであると考えます。

その理由として、今後財政状況がさらに厳しくなると予想される中、6人減ずることで年間の経費は2００万円以上削減でき、議会改革や政策・立案にむけて活用することもできます。また、インターネットなど通信の格段の進歩あるいは情報公開や各市民団体との交流など、市民の市政参加の機会は増えており、議員が減ることに伴う弊害はほとんどなくなると思います。

さらに議会が「議員定数削減」という議会改革の大きな柱を断行することにより、当局が積極的に推し進めている行財政改革に貢献し、今後さらなる財政のスリム化に向けて、拍車がかかることも期待できます。

議会改革は定数削減が目的ではありません。地方分権時代に、議会の役割とは何か、議会の仕組みはどうあるべきなのか、市民に対して理解が得られているのか、常に真摯な議論がこれからも必要だと考えております。本来、市民に「今後の議会のあり方」をお示しし、議論を深めてからの結論が理想でしたが、さらに「開かれた議会」を目指し、議会改革を進めることで市民の理解を得なければなりません。

総務財政

9年後の交付税20億円強減額へ

当委員会に付託された案件は、承認4件、予算案3件、陳情1件でした。

光ファイバ通信網整備23年度まで

光ファイバ通信網設備保守委託の補正から整備状況について審査したところ、「森吉と阿仁地区は全て完了している。鷹巣地区も、ほぼ終っているが、例えば、クリーンリサイクルセンター周辺に一部まだ使えないところがある。合川地区については、合川庁舎周辺はすでに使えるようになっているが、その他の周辺部が未整備で2月の段階でNTT事業として鷹巣地区の一部未整備地区も含め施工が決定した。3月11日の大震災の関係で、資材が全部、被災地に回されるということで、一旦休止せざるを得ない状況になったが、直近の情報では6月に入って工事に着手しており、23年度中には使えるようになるだろう」との説明を受けた。

また、今回の23年度の補正により、普通交付税が96億5013万3千円となったことと将来の交付税について審査したところ「合併特例（旧4町単位で算定した合計額）が合併から10年であり、平成26年度までである。27年度から5年かけて減額され、32年からは完全に特例のない状況となり、その額は20億円強が減額となる。国勢調査による人口減が加われば、交付税の減額はダブルパンチとなる」との説明を受けた。

以上、主な審査結果でした。

（委員長　黒澤芳彦）

▶市内で順次進められた光ファイバ新設工事

教育民生

地盤沈下等により教員住宅を廃止

当委員会に付託された案件は、承認3件、条例案1件、予算案2件でした。

北秋田市教員住宅条例の一部を改正する条例の制定については、老朽化による蛇森教員住宅（昭和52年度建築）と地盤沈下により傾いている松ヶ丘教員住宅の1戸（平成3年度建築）を廃止するものでした。

松ヶ丘教員住宅については、委員から建築時の地質調査について質問があり、「築後20年に満たない住宅の解体は、財政の無駄遣いである。今後は建築前に土壌・地盤の調査を十分に行う必要がある」と指摘しました。また「廃止する住宅に隣接するもう1戸の教員住宅についても早急に処理方針を検討すべき」との意見を付して全会一致で原案のとおり可決としました。

合川西小・南小へ閉校記念事業補助金

平成22年度一般会計補正予算所管分については、住宅用火災警報器設置推進事業補助金が減額されていたため、委員が市内の設置率や普及の取り組みについて質問。消防本部からは5月31日現在の設置率は61％、未設置の世帯には職員が戸別訪問し、設置指導を行っているとの答弁があり、全会一致で承認しました。

また、平成23年度一般会計補正予算所管分では、鷹巣西小学校創立40周年記念事業補助金75万円、合川西・南両小学校の閉校記念事業補助金各150万円の事業費の積算や、クリーンリサイクルセンターの工事請負費760万円等に関連して、同施設の改築計画等について質疑を行い、全会一致で原案のとおり可決としました。

（委員長　松橋　隆）

▶来年3月で閉校となる合川南小の校舎

健康福祉

新薬局は病院の玄関前に一年先

当委員会に付託された案件は、承認3件、予算案5件でした。

23年度一般会計補正予算では、病院事業費の分筆測量委託について、具体的な場所や委託の内容、完成の目途について質疑がありました。当局は、場所は病院敷地内の通路と大野台幹線、大野台線に囲まれている土地。薬局の誘致にあたりクリアすべき課題として、通路の公道認定、用地の用途変更、県から土地を譲り受ける際に5年間は用途変更できないとの条項もある。病院敷地ということでの起債関係で借りているものもあり、協議や薬局の誘致まで、順調でも一年位はかかる。との説明でありました。

老人憩いの家・寿荘 地域と協議へ

老人憩いの家・寿荘（阿仁前田）については、指定管理契約を結んでいる市社会福祉協議会がデイサービスを実施。ポンプ故障の為温泉業務は20年4月から休止。利用者は1万3000人から年々減り昨年度は、1657人。温泉施設の改修には4000万円～5000万円かかるので廃止せざる得ない。との説明に「何か方策は」と迫り「地域と協議し前向きに検討したい」と答えております。

22年度一般会計補正予算では、生活保護費負担分については、傾向として一昨年あたりから保護率が非常に上がっている。昨年度中盤から後半にかけて、かなり増加傾向があったので、歳出予算も必要だが歳入についても、国県と協議して財源も確保しました。年度後期の伸び率がそれほどでもなかったため、不用額が生じたものでした。

（委員長　中嶋洋子）

▶薬局設置が予定される北秋田市民病院の敷地

産業建設

下水道料金等未納対策に質疑

当委員会に付託された案件は、承認4件、予算案3件、単行議案1件、継審陳情1件でした。

22年度一般会計補正予算簡易水道、農業集落排水、下水道各事業特別会計補正予算は全会一致で承認となりましたが、特別会計3件の未納額について質疑があり、催告しているが債権管理委員会で協議するとの答弁がありました。

クウィンス森吉 工期延長分を補償

23年度一般会計補正予算については、クウィンス森吉の補償費500万円は市が全額負担なのか。指定管理契約の条項にあるのかの質疑があり、指定管理基本協定に不可抗力の発生の損害、損失など当該費用について合理性が認められる範囲内で市が負担することになっており、延長工期59日分の補償との答弁でした。又「とれたて村」の窓口は当面観光協会だがその後の委託先はどこで、今どれぐらいの出店希望があるのかに対して「北秋田市物産振興会（仮称）」を設置する。6月1日現在12団体、47商品との答弁でした。農林課関係は、えだまめ日本一産地条件整備332万円。あきたを元気に！農業夢プラン実現5266万円などの新規事業補助金、農業法人経営発展支援1125万円、政策転換対応型農業支援1070万円などの事業補助金があり、採決の結果全会一致で可決となりました。

又特別会計補正予算3件についても全会一致で可決となりました。

継続審査となっておりましたカントリーエレベーターに関する請願陳情は賛成少数で不採択となりました。

（委員長　松尾秀一）

▶指定管理基本協定により補償されたクウィンス森吉

活かそう市民の声　市政を問う

一般質問

各議員の質問に答弁する津谷市長

一般質問は、６月２０日・２１日に行われ、１１名の議員が市長に対して、市長のトップセールス、防災対策、エネルギー施策、地域活性化、医療、観光、内陸線、国民文化祭への対応など様々な問題についてただしました。

※掲載文は、質問者の執筆による原稿を掲載しております。

トップセールスの目標

佐藤 光子 議員（きらり）

問 北秋田市トップセールスにかける市長の決意について。

答 二人の副市長のサポートのもと、フリーな立場で動けるようになり、様々な場面で関係者とお会いしながら、情報の発信や収集をしてきました。今はまだ種をまいているところですが、いずれ芽を出し成長させるべく、なお一層現場主義のもと努める所存です。

問 明確で高い目標設定がトップセールスのポイントと考えますが、現在設定している具体的数値目標は。

答 自治体自らの活動に対して、企業等のような生産目標、ノルマ等といった具体的数値による目標の設定は難しいが、北秋田市長自らが市をＰＲし売り込んでいくことが重要と考えています。「小まめに足を運び、顔を出す」そういった手法で、各種課題の解決に積極的に取り組みます。

議員…災害時情報発信は　市長…メール配信設計中

問 災害時の情報受発信について。

答 一斉放送による情報伝達が一番早く効率的であるとは認識していますが、整備に要する期間、財源等の課題により未だ検討段階です。災害時メール配信についてはシステム内容の設計中です。

問 災害用備蓄品について。

答 主に鷹巣備蓄倉庫に保管しています。賞味期限を迎える食糧品については、防災訓練の際の炊き出し等に活用していきます。

問 現在指定の避難所は適切で万全か。

答 災害時の避難所については、おおよそ集落ごとに指定されており有効な施設と考えます。大半は自治会館等であり、暖房設備等は整っていますが、発電機配置の有無については全体把握ができていませんので早急に対応していきます。

▲鷹巣中裏の備蓄保管倉庫

QRコードの活用は

武田 浩人 議員（公明党）

問 災害情報メール配信事業が予定されているが配信内容と、QRコードを活用して希望者へ配信ができないかを伺います。

答 緊急地震速報、震度速報、震源地や震度に関する情報、気象警報、土砂災害警戒情報は自動配信を行い、市が発する避難情報は手動で配信する予定です。また、QRコードの活用や登録制限数についても、できる限り対応するようシステムの設計に配慮致します。

問 避難支援について策定中の「災害時要援護者避難支援対策プラン」の進捗状況と、個別計画完成後の周知徹底方法を伺います。

答 5月31日の全体計画の策定と併せて一部見直しを行いました。なお、5月11日現在の要援護者登録数は134名です。また、災害直後における要援護者の避難誘導には予め登録されている支援者の方々や地域の皆さんの協力が不可欠であり、地域と一体となった「共助」による支援体制が重要です。実施に際しては市広報やホームページへの掲載、パンフレットの作成等により周知を図るとともに地域説明会等も開催しながら事業の推進に努めます。

▶北秋田市ホームページへアクセスができるQRコード（二次元コード）

議員…災害時の避難支援は
市長…共助による支援が重要

問 学校耐震化について、工事未了の小学校の今後の耐震化計画と避難所指定についての見解を伺います。

答 学校施設の耐震化については北秋田市学校再編整備計画を考慮しながら、耐震化優先度調査を基に順次進めています。合川地区の4小学校、鷹巣西小学校については今後の統合計画を踏まえ進めていきます。また、耐震工事が行われていない校舎を震災時に避難所にするのは安全性に問題があるので、学校再編計画の進捗に合わせて見直します。

東日本大震災の影響は

関口 正則 議員（みどりの風）

問 東日本大震災の影響について

答 地域経済への影響について、復旧支援資金保証制度での借入が4月から5月までの2か月間で82件、総額が8億8000万円に上っており、大変な影響を及ぼしています。市でも企業訪問を継続し、支援していきます。

▶改めて災害対応の重要性が示された大震災（気仙沼市）

議員…地域医療の充実を
市長…医師確保利便性図る

問 地域医療の整備対策について

答 市民病院の医師確保は、開業時より3名増の18名となっています。医師の慰留対策として医療クラークの増員や夜間、休日等の救急外来の強化等を実施し、職場環境の改善に努めています。交通アクセスの改善は、鷹巣・市民病院・合川線の増便や米内沢・市民病院線の新設等で改善に努めてきました。直営バスの運行は難しい状況だが、路線バス運行事業者と協議を進めます。米内沢診療所は、4月は2953人、5月は3188人の利用者があり、順調なスタートを切れたと思っています。今後も利用者の意見や要望の把握に努め、医療サービスの向上と信頼と親しみある診療所として地域医療を担っていきます。

問 北秋田市の防災対策ついて

答 流雪溝の整備計画は、水源や流末、更に施設の管理運営等の問題から整備の予定はありません。防火水利は、充足率が68％ですので順次整備に努めます。危険箇所は、判明しているもので160箇所余り、その内土砂災害警戒区域に指定されているのは30箇所です。今後も砂防ダム等の建設を県に要請していくが、ハザードマップの活用等も図っていきます。避難誘導体制は、メール配信システムの導入と自主防災組織の立ち上げに取り組みます。

防災・福祉のまちづくり

久留嶋 範子 議員（共産党議員団）

問 防災計画の抜本的見直しと具体化について避難所の耐震改修の実態、学校や保育所、老人ホームなどの耐震改修の実態と民家の耐震改修の進展状況と対策については。

答 学校施設などは順次耐震化が進んでいるが自治会館などの民間施設は実態が把握できていない状態であり、早急に実態調査を行い、避難所指定の適否を判断していきたい。

阿仁地域で取り組む「高齢者世帯安心・安全ネットワーク事業」

議員…高齢化集落対策は
市長…阿仁地域で取り組む

問 住民福祉、地域自治会組織の強化と職員配置、高齢化集落対策は。

答 本年度から2カ年、阿仁地域で「高齢者世帯安心・安全ネットワーク事業」に取り組みます。市の職員が直接対象となる高齢者世帯を訪問し、集落の状況や高齢者の生活環境、個々のニーズ等を把握し、いかに行政と福祉事業機関、各自治会等がネットワークを構築し、高齢者の支援活動を展開すべきかを調整、検討していきます。

問 原発エネルギー政策から自然エネルギーに転換の時、市長の考えは。

答 原発の即時全面停止は物理的に困難。しかしながら、原発の信頼が大きく揺らいでいることから、原子力に頼らない安全で安心なエネルギー発電への転換を進める必要があるのではないかと考えます。

問 太陽光発電の公共施設への設置予定は、また個人住宅に太陽光発電パネル設置の補助制度計画は。

答 新築の米内沢小学校の校舎には、太陽光発電システムを導入することにしています。その状況を見ながら日中の電力消費が多い学校や役所などへの設置を検討していきます。国、県をはじめ県内の市町村でも補助を行ってきており、他の市町村の状況を確認しながら検討していきます。

19年災害検証記録なし

福岡 由巳 議員（共産党議員団）

問 平成19年豪雨災害についてどのように検証されていますか。

答 申しわけありませんが、時系列表等の行動記録が残されず検証した記録も残っていません。

問 19年豪雨災害の教訓・課題から防災計画の見直しをしますか。

答 検証されてないので、今年度中に21年度の機構改革に対応した職員の動員体制の確立を中心に見直すことで作業を進めます。

H19年豪雨災害（李岱交差点）

問 制度開始11年を経た介護保険が増え続ける介護ニーズに応えられず、様々な問題が顕在化しています。このような時、北秋田市はこの制度をどのように検証していますか。

答 介護サービスの基盤整備をすれば直接保険料に影響することから、市としては今後とも要支援・要介護状態となりそうな人を早期に発見し、介護予防等に結びつける取り組みを重点施策に推進したいと考えます。

議員…介護保険料減免措置を
市長…国庫負担増を求める

問 来年度から介護保険料1000円の値上げも予想されますが、保険料の減免措置など行い、値上げすべきではないと思いますがどのように考えますか。

答 国の負担が増えなければ、今以上の保険料負担になるため、国庫負担割合の引き上げを国に求めていきます。

問 介護心中、介護殺人等多発し介護崩壊しつつあります。高齢者など弱者の社会的孤立をどのように改善しますか。

答 高齢者が住み慣れた地域で継続した生活ができるための環境づくりが必要と考えます。

問 上杉あいターミナルのパソコンが古く使用できる状態ではありません。また、大野台ハイランド体育館の雨漏りは長年放置されたままです。利用できるようにすべきではないですか。

答 上杉と体育館の件については、ご要望として真剣に受け止めたいと思います。

地域活性化への秘策は

三浦 一英 議員（みどりの風）

問 過疎自立促進計画について22年度の検証結果は。「買い物巡回バス」等の導入はないのか。

答 過疎債の活用17事業3億4350万円の起債。計画達成に向けて着実な実施が図られていると考えられます。
　買い物バスについては市民の意見を頂戴して良い方策を探ります。

問 市の花あじさいを家々に植栽できないか。

答 誕生の森記念植樹については検討します。公共施設敷地への植栽から開始します。公民館活動で各家々の軒先への植栽を検討します。

問 鷹巣駅前に胸躍る「風力発電」は考えられないか。

答 北秋田市では森吉山スキー場が考えられますが県立自然公園であり設置は難しく、今後総合的に検討します。

問 エコエネルギーモニュメントを建設し、開発を図られないか。

答 現状は非常に寂しい状況ですが費用負担の軽減など実のある活性化策を推進します。

議員…田んぼの生き物調査
市長…特色ある教育活動推進

問 田んぼの生き物調査の推奨と食育教育は

答 校長会等を利用して実施校の実践例を紹介し、教育の一環として進めてまいります。

問 災害ハザードマップに想定外の見直しは。

答 地域防災計画の中で震災時の水害予防計画を対策にしています。

問 まとび学園など宿泊できる施設の活用は。

答 基本方針のもとに順次利活用方針を決定してまいります。避難所の目的で維持していく事は極めて困難です。

問 新田目橋の補修計画は。また、防災上、根田下杉路線の橋は。

答 新田目橋は計画では25年までに補修の予定です。
　根田下杉路線の橋は6年間で17億円の経費がかかり、財政上休止しており、社会情勢を見極めて検討します。

▶合川南小
最後の生き物調査

市の医療は政策ミス

板垣 淳 議員（共産党議員団）

問 市全体の医療規模は、医療構想策定前の半分になり、それでいて財政支出は増えた。これは、政策判断ミス。
　少しでも打開するために、市民病院への赤字補てんと納付金免除は見直すべき。市監査委員も是正を求めている。

答 市民病院が黒字にならない限り難しい。

問 療養病室にテレビ設置を。

答 前向きに検討したい。

問 米内沢診療所で朝9時前に受け付けをした患者さんを2時間以上も待たせたあげく帰したことが何度かあった。これは一義的に診察を途中でやめた医師の問題だが、同時に市の体制の問題でもある。

答 是正するよう取り組む。

問 米内沢病院の職員を解雇する際、市長は「再就職をあっせんする」と言ったがやっていない。議会にも当事者にも約束したことを守れないようではだめだ。

答 未就職者を把握し今後あっせんしたい。

▶2年目を迎えた
北秋田市民病院

議員…観光振興を積極的に
市長…県内外にPRしたい

問 まもなく開催されるJRのディスティネーションキャンペーンは、全国に知名度をアップし誘客増を願うわが市にとって願ってもないチャンス。しかしこういう大事な時に副市長やマタギ観光㈱は「地元に密着した営業を展開する」と言っている。これだと観光振興にならないのでは。

答 地元にだけ視線を向けても観光振興という点では弱いので、私としては県内外に広くそして小まめに足を運んでセールス、PRしていきたい。

問 マタギ観光㈱の賃金未払い問題への対応は。

答 労働基準監督署の指導や法令を遵守するよう強力に指導する。

顔の見える指導力を

黒澤 芳彦 議員（政友会）

問 外国から見ると、日本は国民は一流、経済は二流、政治は三流と言われている。東日本大震災の復旧、復興を盾にとっての政争はやめてくれというのが日本人の本音ではないでしょうか。その原因は菅首相のリーダーシップのなさにある。

津谷市長のリーダーシップは如何に。

トップセールスの具体的中味として、①トップでなければできないこと、例えば中央省庁からの人材派遣とか、②トップとして先頭になり顔の見える指導力、例えば空港のある地元市として、いち早く片道５０００円の助成金制度を立ち上げるべきでなかったか。

答 市長として、小まめに足を運び、顔を出すことを基本に取り組み、産業振興のみならず市民生活全般の向上を目指している。中央省庁の人材派遣も国の情勢が不安定なことから具体的検討には至っていないが、旧町時代に人事交流した経緯もあり、効果等検証したい。空港の搭乗率アップ策について、多方面から検討したが合意に至らず、今議会に提案した片道５０００円の助成事業となった。

東京便には、5,000円の助成

議員…二人副市長制の役割
市長…的確かつ迅速に対応

問 副市長二人制の役割と効果について

答 多様化する行政課題に的確かつ迅速に対応したいとして、虻川副市長が特命事項を、工藤副市長が内部事務の統括をと役割を分担した。

問 菌床ブロックを活用した有機センター利用は考えられないか。

答 その効果や供給量並びに配合成分のマニュアル等がない。

問 「森と共生」を目的とした森林づくり条例による山の保全は。

答 県の補助事業と市で独自で事業費の最大で15％嵩上げを予定している。

阿仁地域の振興を図れ

吉田 仁吉郎 議員（清和会）

問 昭和54年に開園した阿仁花菖蒲園は、これまで多くの観光客でにぎわい一大イベントとして、繰り広げてきたが、平成20年でストップの状態である。今後の計画と見通しについて。

答 花の状態が悪く21年度より休園してきているが3年計画で株分け等を行い、平成25年度開園に向けて作業を行っている。今日庵広場と一体的に整備していきたい。

問 ブナ森道は北秋田と仙北市を結ぶ産業観光道路、これまで66億円の巨費をかけて整備されてきているが残り15㎞が未整備の状態である。これまでの事業費を生かすためにも積極的な取り組みを。

答 内陸部と県都を結ぶ重要なルートとして位置づけ、今後も地域振興のため県道昇格と合わせ積極的に働きかけて参りたい。

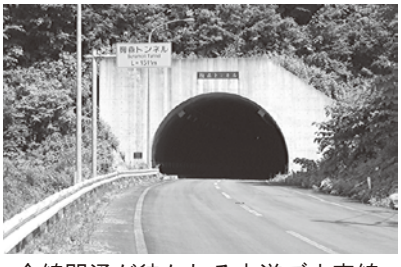
議員…ブナ森道は市の発展に大
市長…観光や産業振興に必要

問 青少年の野外活動の拠点として開設されてきたブナ帯キャンプ場内にあるケビン、施設が傷み活用しにくい状態にあるが、今後のあり方について考えは。

答 設置されてから32年が経過し、老朽化が激しい状態にある。今後この施設を補修し活用したいという団体もあるので協議しながらその有効活用を検討して参りたい。

問 阿仁町時代に営林署より払下げた苗畑跡地、国体のアーチェリー会場として使用されてきたが、その後の活用がなされていない。今後の利用計画があるのか。

答 一部森林組合へ貸付をしているが7ヘクタールが未利用のままである。取得制限があったが現在はそれが解除され売却や貸付も可能になっている。阿仁地区では、ほかに得難いまとまった面積であるので今後林業関係の企業も含め検討して参りたい。



全線開通が待たれる市道ブナ森線

観光施策について

山田 博康 議員（清和会）

議員…内陸線の利便性を
市長…利用者の声をきいて

問 ゴンドラの譲渡を受け森吉山の通年観光が実現しましたが、今後多数の名瀑等周辺の観光資源のさらなる利活用にむけた取組みが求められます。ＰＲ活動、アクセスの整備等行政の積極的な関与が期待されますがいかなる取組みをされますか。

答 森吉山とその周辺は当市の重要な観光資源の一つであることは承知しております。森吉山ダムもおおむね完成し、その利活用の検討も行っているところであります。市単独だけでは限界があるので、関係機関や団体の皆様と協働しながら取り組みたいと考えます。

問 人口減少と平行し内陸線の利用者が年毎に減少し厳しい経営状況と聞きますが、この度北鷹高校の誕生により、通学利用が増加したようです。朝の通学時1両での運行が利用者に不便をかけているとのことですが増両での運行を実現させるべきではないですか。

答 補助事業の活用により利用促進につなげたいと考えておりますが、混雑することで利用者離れにつながれば身もふたもなくなりますので利用者の声を聞きながら今後会社と協議します。

問 ３年後本県での開催が決まった国民文化祭への取組みとして、地域コミュニティーを再構築する手法として郷土芸能を維持していくのは市の支援が必要ではないでしょうか。

答 平成18年から市の文化会館で伝統芸能発表会を開催しております。旧町毎での芸能発表会の開催までにはいたっていませんが、今後検討させてください。

根子番楽伝承館の整備についてはトイレを新しく設置することを約束します。

▶国の重要無形民俗文化財「根子番楽」

内陸線の今後の意見交換会について

大森 光信 議員（きらり）

問 市長のトップセールスについて、現在までに行ってきた経過と自己評価をお聞かせください。

答 物や産業だけでなく、市そのもののＰＲに努めております。またその評価は、相手方との信頼関係の構築に、これまで以上に取り組まなければならないと考えております。

問 副市長が二人制になりましたが、責任の所在を明確化するためにも、それぞれの副市長の役割を教えてください。

答 虻川副市長は、市長が特に命ずる事項及び市政全般の事務の総括に関すること、一方これら以外が工藤副市長の担任事務と規定しております。

問 トップセールスについて、いつごろまでにどれくらいの成果を想定しているのかをお聞きします。

答 自治体は自己の生業として、直接経済生産活動や販売活動を行なっているわけではありませんので、目標や期限、ノルマなどを設定することは難しいと考えます。

議員…震災による経済損失は
市長…実態把握は困難

問 震災による損失規模をどのように分析し、救済策につなげていくかを教えてください。

答 業種によってバラツキが大きく、実態把握は困難な状況下にあります。また、東北地方太平洋沖地震復旧支援資金保証制度の利子補給等の独自制度は財政事情もあり、設けておりません。

問 内陸線の収支状況の悪化、震災の影響による観光客の激減など回復が望めない中、４者合意の見直しが必要ではないでしょうか。

答 これまでの状況では目標達成が厳しいものと認識しており、目標との差異が生じれば今後４者での協議が必要になるものと考えています。

▶震災の影響が深刻な内陸線

今定例会で審議された議案と結果

事　　件	審議結果	
専決処分の承認を求めることについて（専決第２号北秋田市過疎地域自立促進のための固定資産税の課税免除に関する条例の一部を改正する条例の制定について）	全会一致	承　認
専決処分の承認を求めることについて（専決第３号北秋田市国民健康保険税条例の一部を改正する条例の制定について）	全会一致	承　認
専決処分の承認を求めることについて（専決第４号北秋田市国民健康保険条例の一部を改正する条例の制定について）	全会一致	承　認
専決処分の承認を求めることについて（専決第５号平成２２年度北秋田市一般会計補正予算第９号）	全会一致	承　認
専決処分の承認を求めることについて（専決第６号平成２２年度北秋田市国民健康保険合川診療所特別会計補正予算第４号）	全会一致	承　認
専決処分の承認を求めることについて（専決第７号平成２２年度北秋田市簡易水道特別会計補正予算第５号）	全会一致	承　認
専決処分の承認を求めることについて（専決第８号平成２２年度北秋田市農業集落排水事業特別会計補正予算第５号）	全会一致	承　認
専決処分の承認を求めることについて（専決第９号平成２２年度北秋田市下水道事業特別会計補正予算第５号）	全会一致	承　認
専決処分の承認を求めることについて（専決第１０号平成２２年度北秋田市北秋田市立阿仁診療所特別会計補正予算第３号）	全会一致	承　認
専決処分の承認を求めることについて（専決第１１号平成２３年度北秋田市一般会計補正予算第１号）	全会一致	承　認
専決処分の承認を求めることについて（専決第１２号北秋田市市税条例の一部を改正する条例の制定について）	全会一致	承　認
北秋田市教員住宅条例の一部を改正する条例の制定について	全会一致	原案可決
平成２３年度北秋田市一般会計補正予算（第２号）	全会一致	原案可決
平成２３年度北秋田市国民健康保険特別会計補正予算（第１号）	全会一致	原案可決
平成２３年度北秋田市国民健康保険合川診療所特別会計補正予算（第１号）	全会一致	原案可決
平成２３年度北秋田市介護保険特別会計補正予算（第１号）	全会一致	原案可決
平成２３年度北秋田市簡易水道特別会計補正予算（第１号）	全会一致	原案可決
平成２３年度北秋田市農業集落排水事業特別会計補正予算（第１号）	全会一致	原案可決
平成２３年度北秋田市立阿仁診療所特別会計補正予算（第１号）	全会一致	原案可決
平成２３年度北秋田市立米内沢診療所特別会計補正予算（第１号）	全会一致	原案可決
平成２３年度北秋田市坊沢財産区特別会計補正予算（第１号）	全会一致	原案可決
平成２３年度北秋田市前田財産区特別会計補正予算（第１号）	全会一致	原案可決
北秋田市農業集落排水事業特別会計への繰入について	全会一致	原案可決
北秋田市監査委員の選任について	無記名投票 賛:17・反:6	同　意
北秋田市農業委員会委員の推薦について	指名推選	
北秋田市議会議員の定数を定める条例の一部を改正する条例の制定について	賛成多数	原案可決
各常任委員会及び議会運営委員会の所管事務調査について（５件）	全会一致	原案可決
陳情１件、継審陳情１件	（１５頁参照）	

議員定数削減

～これまでの市議会の動き

今定例会に議員発議案（提出者：米澤一議員、賛成者6議員）として上程された議員定数を現行の26人から20人に改正する条例案は賛成多数で原案のとおり可決されました。

これまで、議員定数の削減については2度の「否決」という審議結果を経て、議会改革特別委員会や議会運営委員会で議論されてきました。

これまでの審議結果

平成21年6月定例会
2議席削減案　否決
平成21年12月定例会
4議席削減案　否決
平成23年6月定例会
6議席削減案　可決

6月定例会最終日に発議案第6号「北秋田市議会議員の定数を定める条例の一部を改正する条例の制定について」が提案されました。

議員定数を現行の「26人」から「20人」に改めるものです。提案理由として「本市が置かれている厳しい行財政事情からすれば、優先して取り組むべき課題のひとつと考える」などとなっております。

平成21年には2度の「否決」

北秋田市議会では、平成20年3月から3回にわたり、議員定数に関する検討委員会を立ち上げて検討を重ねたあと、定例会において定数削減を求める改正条例の制定が2回提案されましたが、審議の結果「否決」となった経緯があります。

平成21年6月定例会では議員を4人減の案を提案。反対の立場からは「地域が広く、減らせば民意も反映されにくくなる。議員報酬も県内で下から2番目で決して高くない」賛成の立場からは「減らしても民意が反映されにくくなるとは思わない。市財政などを考え減らすべき」「地域が広範囲というが、インターネットの時代であり、それでカバーできる」と討論があり、起立採決の結果、賛成少数で否決としました。

平成21年12月定例会無記名投票の様子

同じく平成21年12月定例会では議員を2人減の案を提案。反対の立場からは「広域な地域でもあり民意が反映されにくくなる。議会費は全体の0・7パーセントでけっして高くない」賛成の立場からは「どこの自治体でも減らしてきている。世論は議員数が多すぎるの一語となっている」との討論があり、無記名投票の結果、賛成10票・反対15票で否決としました。

議会改革特別委・議会運営委で議論

平成22年9月からは、議会改革特別委員会（米澤一委員長）で平成23年3月まで7回にわたり議論されましたが、結論を得ることができず、議会運営委員会（米澤一委員長）に協議を委ねました。

その後、5月26日に開かれた議会運営委員会では、委員の賛同を得て議員発議として議案が提出されました。

そして、今定例会では、民意が反映されにくくなるなどの定数減少によるデメリットは「議員自らが研修・研鑽を重ね、資質を高め議会活動を活発にすることで解消でき、多くの市民の負託に応えることができる」との考えに多くの議員が賛同し起立採決の結果、賛成多数で、原案のとおり可決としました。

改正条例は、平成26年3月の市議会議員選挙から施行されます。

西東京市議会を視察研修

～広報公聴特別委員会所管事務調査

広報公聴特別委員会の所管調査先として「市民がわかりやすい議会だよりを発行している市議会を研修したい」ということで話し合い、西東京市議会を選定し、5月25日に調査を実施しました。

議会だよりには会派の表決結果を掲載

西東京市議会では、各会派の代表が行う代表質問と各々の議員が行う一般質問が行われており、代表質問では各会派から6名、一般質問では、議員28人中8割の議員が毎回質問するとの説明がありました。

それにより、議会だよりについても、質問者の人数が多いため、各議員の掲載スペースは小さいものの、わかりやすくまとめてあり、字体やフォントサイズ、レイアウトについてもスッキリして読み易いものでした。議案の表決結果についても会派ごとに掲載されていました。

また、市民に対して議会だよりアンケートも実施しており、掲載している記事のなかで、興味を持って読んでいるもの、新たに取り上げてほしい記事などを聞き取りして、市民の意見が反映した議会だよりづくりに努めていました。

市民に見える開かれた議会を発信

議会のインターネット中継についても、経緯や費用の説明を受けたあと、議場や中継システムの設備を見せて頂き、その素晴らしさに委員一同驚きの声が出ました。

今回の調査では、大変貴重な意見や編集方法を聞くことができ、参考にしながら、今後の編集に活かしていきたいと考えています。

市ホームページより

本会議等の会議録がご覧になれます

北秋田市議会では、各定例会の本会議や臨時会の会議録（平成２２年４月以降分）を市のホームページで公開しています。

会議録とは、議会の会議内容をそのまま記録した公文書で、運営を公認する書類です。会議録は、議会活動の経過を記録するため、また会議録公開の原則に基づき、住民に会議の内容を公開するために作成されています。

これまでも、議会事務局や鷹巣図書館において、冊子（紙）で公開されておりますが、平成２２年８月より、市ホームページ内でも公開しており、家庭や職場などから簡単に閲覧することができます。

（北秋田市ホームページ）

クリック

市議会のページへ

クリック

会議録検索システムのページへ

みなさんからの請願・陳情と意見書提出

件　　名	請願・陳情者氏名	結果	意見書
地方財政の充実・強化を求める意見書の提出を要請する陳情	連合秋田大館地域協議会 議長　碇谷博人	採択	提出
広域カントリーエレベーターに関する陳情書（継続審査）	北秋田広域カントリーエレベーター利用組合 代表理事　斎藤祐一 あきた北央農業協同組合 代表理事組合長　疋田俊一郎 鷹巣町農業協同組合 代表理事組合長　佐藤清孝	不採択	

5議員に全国市議会議長会表彰

第87回全国市議会議長会定期総会が6月15日、日比谷公会堂（東京都）で行われ、本市議会から5議員が永年勤続者として表彰されました。

表彰は、市議在職3年以上が対象で、市町村合併前の町議在職期間の2分の1を在職期間として加算しています。

▼15年以上在職議員
吉田　仁吉郎　議員

▼10年以上在職議員
長崎　克彦　議員
佐藤　重光　議員
金田　司　議員
佐藤　文信　議員

今定例会初日の6月17日に表彰状が伝達されました

佐藤議長が地域医療体制の充実強化を訴える

前掲の第87回全国市議会議長会定期総会において、当市議会の佐藤吉次郎議長が東北部会を代表して、地域医療体制の充実強化を訴えました。

佐藤議長は、多くの自治体病院では、地域医療に従事する医師の不足や診療科の偏在が顕著となっており、勤務医の労働過重の問題とも重なり、医師不足の解消が喫緊の課題となっている。

また、常勤医の不足に伴い、診療科を休診せざるを得ない深刻な事態も続いており、各自治体の努力だけでは、この問題を解決することは、極めて困難なことから、次の4項目について国に要望する議案を上程しました。

1. 医師養成を図るとともに医師偏在をなくし、全国均等な専門医の配置など医療提供体制の整備と制度や方針を確立すること。
2. 県、大学、医師会等の連携のもと、県内医療機関への医師配置に関する調整機能を確保し、医師及び診療科の地域偏在を是正すること。
3. 地域住民に良質な医療を効率的かつ持続的に提供するため医師確保対策を講じること。
4. 小児救急医療について、医師確保と地域への均衡ある配置を実現し、医療体制の充実強化を図るため、体制の整備と財政措置を講じること。

住民が生活圏内で安定した医療を受けられるよう要望した、この議案は満場の賛同で決議されました。

地域医療体制の充実強化を要望した佐藤議長

色鮮やかなあじさいが市民らを和ませた翠雲公園

～合川あじさいまつり

合川あじさいまつりが7月17日（日）、合川三木田地区の翠雲（すいうん）公園で開催されました。

公園内では、マジックショーや工夫を凝らした様々なゲームが催され、市民らが、鮮やかに咲き誇るあじさいを鑑賞しながら、まつりを楽しみました。

人事案件

本定例会に人事同意案件が提案され、次のとおり同意することに決定しました。

◎監査委員
佐藤　文信　氏（新任）
脇神囲ノ内

農業委員の推薦について

委員の任期満了に伴い、次の方々を推薦しました。

佐藤　利子　氏（七日市）
金田　悦子　氏（根田）
楢岡　悦子　氏（米内沢）
庄司　憲三郎氏（阿仁前田）

次の定例会は
9月です
市民の皆さまの傍聴を
お待ちしています

各常任委員会の会場
総務財政（本　庁　舎）
教育民生（阿仁庁舎）
健康福祉（合川庁舎）
産業建設（森吉庁舎）

あとがき

夏の強い日差しを日々感じ、夏本番の厳しい暑さを迎える季節になりました。こまめに水分を取り、熱中症にはくれぐれもお気をつけ下さい。

東日本大震災から１４０日余りが経過しました。しかし、いまだ不自由な生活を余儀なくされている方々も多くいます。心が痛みます。北秋田市でも震災ボランティアに参加される方も多く、自分たちのできることを無理のない範囲で積極的に行動に移して下さっている姿に心打たれました。私たちもこの震災を忘れることなく被災地復興への一助となれるよう支援していきたいと思っています。

北秋田市議会では、一般質問の人数制限撤廃や議員定数削減など少しずつではありますが議会改革が進んできています。広報公聴特別委員会でも議会だよりに「議員別表決結果」を掲載したく、検討を続けてきました。「開かれた議会」を目指し、早期に実施できるよう今後も取り組んでいきます。

議会だよりを通して、積極的に議会の情報を提供し、読みやすく、わかりやすい、そして親しみのある議会だよりにするために、委員一同積極的に意見を出し合い、一歩一歩前進して行きたいと思っていますので、皆様の意見等を心よりお待ちいたしております。

（佐藤　光子）

編集　広報公聴特別委員会
発行　北秋田市議会

広報公聴特別委員会
委員長　佐藤　光子
副委員長　大森　光信
委員　長崎　克彦
関口　正則
武田　浩人
事務局担当　渡辺　靖光

〒018－3392 秋田県北秋田市花園町19番1号
☎0186－62－6624　FAX0186－62－4845